

こくさいきょうしつ 国際教室だより

No. 4
2021年10月28日
国際教室担当

<まずは話しやすい言葉を>

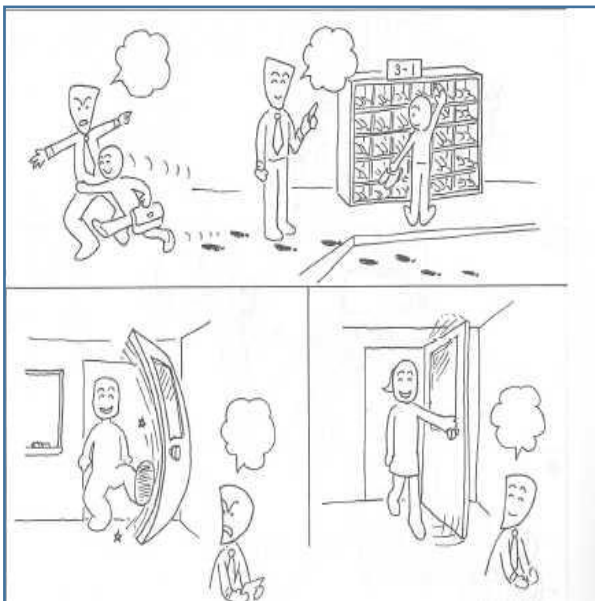
日常ぶつうに使われている「話し言葉」には、単語だけだったり、助詞(が、で、に、を・・・)が使われていなかったりして、簡略化されたものがとても多いです。

では、なぜ正しくないのに簡略化されるのでしょうか。それは話すためのエネルギーが最小限ですむからです。簡単な内容でしたら、単語だけでも言いたいことは想像できますし、助詞がなくても間違えられません。

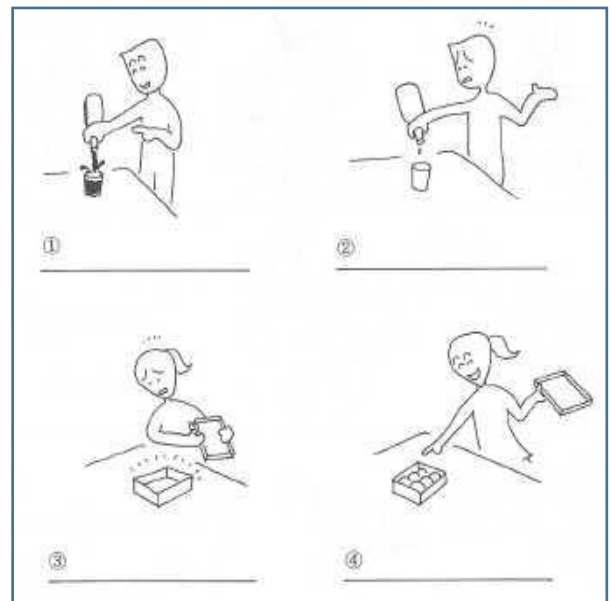
たとえば、日常会話では「これ、食べる？ 食べない？」と言えば十分伝わりますが、国語の学習では正しい伝え方として、「あなたはこれを食べますか？」と教えます。

しかし、初期の日本語指導では、まず子どもが「簡略話し言葉」を身に付けて、一日も早く周囲とのコミュニケーションができるようにすることが大切です。ひらがな・かたかなより先に学習します！

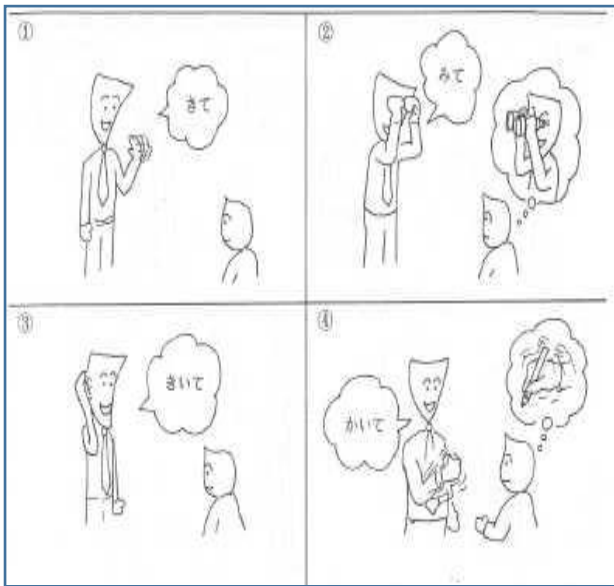
れい① いい・だめ



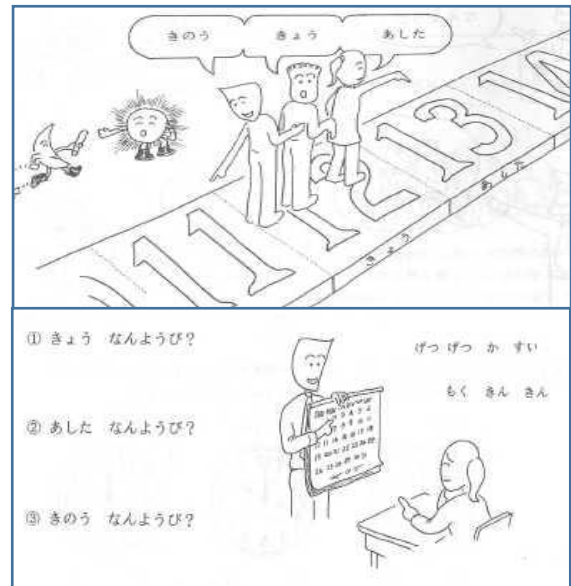
れい② ある・ない



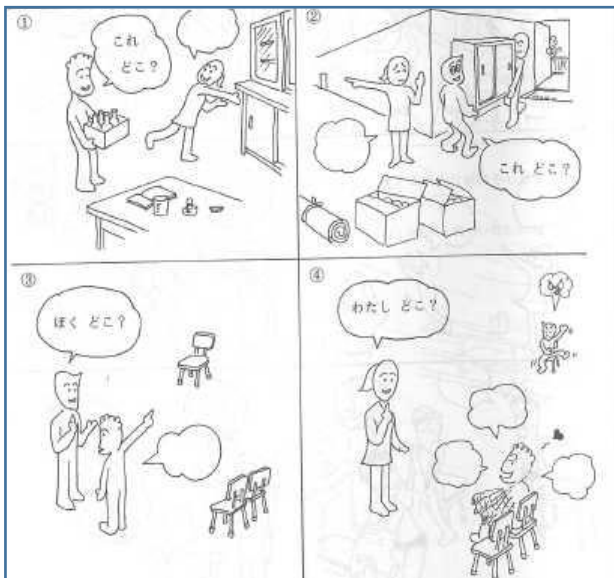
れい⑬ きて・みて・きいて・かいて



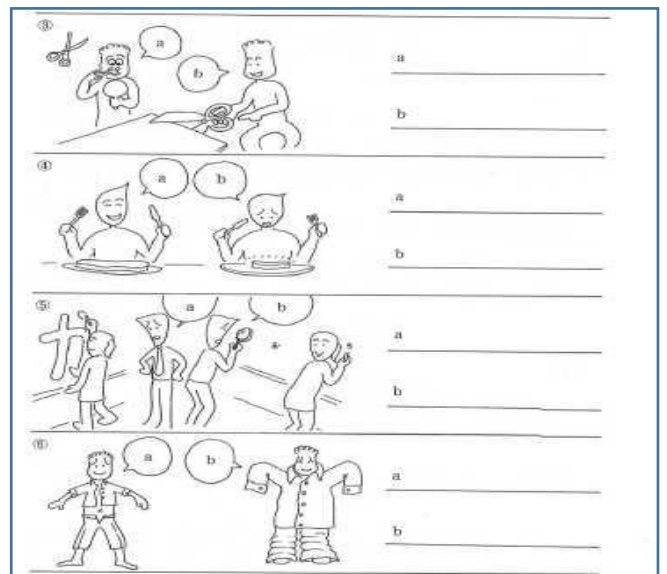
れい⑭ きのう・きょう・あした



れい⑮ ここ・どこ・あそこ



れい⑯ おおきい・ちいさい



(引用元:「日本語学級」 凡人社)

わたし ことば かんが たが おも ことば つた あ ぼご かんが にほんご へんかん
 私たちは言葉で考え、互いの思いを言葉で伝え合います。母語で考えたことを日本語に変換
 しながら学校生活を送ることはとても大変なことです。国際教室で学ぶ子どもたちを含む全て
 の児童が豊かにかかわり合えるように、帷子小学校では、国際教室での学びを全校の子ども
 たちにも伝え、一人ひとりのよさやがんばりを互いに認め合う環境づくりをしていきます。
 国際教室の取組についてご理解・ご協力をご希望いたします。